

●春日部市民文化講座（第3回）

◆日 時：2012年11月14日(水) 10時（ぼぼら春日部6階会議室）～11時

◆テ ー マ：講演「日本人の生活と共にあった和菓子の話し」

講師：小川一博さん（菓匠「青柳」ご主人）

◆ゲスト紹介：明治33年創業、御匠「青柳」4代目ご主人。素材の持つ味、香り、色合いなどをより活かせるような和菓子づくりを心がけております。代々受け継がれてきた商品・製法・色合いなど次世代に伝えてゆくべきものは守り、一方で和にこだわりながらジャンルにとらわれず色々な材料や製法を取り入れ商品を開発しています。

■明治33年開業の店を継ぐ

私どもの店・青柳は春日部駅東口のブロンズ通りにあり、明治33年(1900)の創業です。東武鉄道が開業し粕壁駅(現在の春日部駅)が開設されたのが明治32年(1899)で、祖父母からも「青柳は粕壁駅が開設された翌年に開業した」と聞かされています。私は1960年生まれで、3人姉弟の姉2人です。ですから、私が誕生した時に父母は跡取りができたことと喜んだそうです。高校生の時に跡を継ぐことの覚悟を決めて、卒業後は2年間専門学校に通い、それから2年間でしたが他の店で修行してまいりました。2年間ではありましたが、今思えば他人様の飯を食うという経験は良いものであったと思いますし、現在の自分があると思います。



■人生の横にあった和菓子、茶の友であった和菓子

さて、本日お話をさせていただくにあたって、「和菓子とは何だろうか」と考えてみました。日本人の人生の中で和菓子は横にあったものであり、皆様はお茶をなさっていらっしゃる方が多いようですのでお茶の友であったと思います。子どもが生まれますと各家庭では「お赤飯」を炊き喜び祝いました。子どもが1歳になると「一升餅」を背負わせて一生食することに困らないようにと祈りました。七五三があり、成人式があり、お祝いの席にはその都度、お菓子が付けられていたと思います。結婚式では「羊羹」や「砂糖菓子」が引き出物になっていました。そして人生の最後には「枕団子」が供えられ、葬式の引き出物には「葬式饅頭」が配られたものです。お祭りではお供物が団子であり、砂糖菓子であり、和菓子でした。そんな生活が何時の日からか変わりだし、洋菓子やカタログが引き出物になり、赤飯では無くファミレスでの食事になってしまいました。日本人の横にあった和菓子がなくなってしまったことは、とても残念なことであります。



■和菓子の季節感

本日はこの後、お抹茶と一緒に「亥の子餅」を召し上がっていただきますが、和菓子には季節があります。そんな季節の和菓子についてお話してまいります。「亥の子餅」は、旧暦十月亥の日亥の刻(午後10時)に亥の子餅を食べ、多産の亥(いのしし)にあやかり、無病息災、子孫繁栄を祈る年中行事でした。かつては宮中で盛んに取り入れられ、お茶席では関西を中心に広がってきたそうです。暮れは「伸し餅」です。昔は「ちんもち(賃餅)」とも言いました。農家の方が米を持ってきて餅と交換していくので、賃金と餅が付いたものです。正月は「花びら餅」です。宮中の雑煮の代わりに食べられた和菓子ですね。そして1月中旬からは郷土菓子の「花餅」です。由来は初午の日に五穀豊穰、無病息災を祈ってお稲荷さんにお供えた菓子で、しん粉と餡だけのシンプルな品で本当の味が分かる和菓子です。「花餅」は、以前は2月末頃まででしたが、今は4月の入学式頃まで作ります。端午の節句には「柏餅」。6月16日は「和菓子の日」です。平安時代(西暦848年、嘉祥元年)の夏、仁明天皇が御神託に基づいて、6月16日に16の数にちなんだ菓子、餅などを神前に供えて、疫病を除け健康招福を祈誓し、「嘉祥」と改元したという古例にちなんで「嘉祥菓子」を作ります。さらに大祓の6月30日に「水無月」という菓子を作ります。水無月の上部にある小豆は悪魔払いの意味があり、三角の形は暑気を払う氷を表しているといわれています。このように和菓子は日本の五穀豊穰や無病息災を祈る行事の横に人生の横にありました。ぜひ、これからも人生の横に和菓子のある暮らしを取り戻して欲しいと思います。

■本物を追求する

敢えて「本物」と言わせていただくのですが、餅も餡もその日のうちにこしらえて、その日のうちに召し上がっていただく和菓子が本物です。ですから、餅が夕方になると硬くなっていく、そこで焼いていただく美味しく食感で食べられるようなものです。何日経ってもふわふわと柔らかいような大福は本物ではないと言いたいのです。ですから、私どもでは年1回、子ども達に和菓子教室を設けて和菓子を作ってもらい、本当の餅や餡の味を覚えてもらおうとしています。以前は高齢者になれば和菓子を好んでもらえると思っていたのですが、人間の味覚は3歳までに決まるようで、子どもの頃から洋菓子を好んでいた人たちは高齢になっても洋菓子が好きようです。

小川さんの真面目なお話、そして「人生の横にあった和菓子」共感する部分が多くありました。